

大山の森だより

2021年夏号

大山(だいせん)と言う呼び名

一般的に大山(だいせん)と呼ぶようになったのは、もともと偉大な神の宿る山という意味で大神山または大神岳と呼ばれたものが、のちに神が略されて大山(山=岳)になったと言われています。

ではなぜ山を「サン」ではなく「セン」と読むのでしょうか？

いくつか説があります。ひとつは仏教の須弥山(しゅみせん)からきているという説。大山は古くから仏教の修行の地とされてきました。大山の頂上を弥山(みせん)と呼びますが、弥山とは須弥山を略した呼び名です。須弥山とは仏教世界において世界の中心にそびえる果てしなく高い山のことで

また修験道の霊山として崇められていたため、山の文字を仙に代えて大仙(だいせん)と書いていたからという説もあります。大山周辺の古い道標には大仙と書かれているものがいくつかあります。

さらに山陰地方が古くから中国の南部との交流があったため、南部の発音(呉音)で山をセンと呼ぶようになったという説もあります。氷ノ山(ヒョウノセン)、勝田ヶ山(カツタガセン)、甲ヶ山(カブトガセン)、蒜山(ヒルゼン)など大山の周りにはセンと読む山は複数あります。※中国北部の発音(漢音)ではサン



■コロナ下での大山登山■ 鳥取県 HP より一部抜粋

感染力の非常に強い変異型などの新型コロナウイルスが全国的に感染急拡大している状況を踏まえ、登山時の感染拡大防止策の徹底を図っています。ご協力をお願いします。

■グループ登山は5名以内で ■歩行時は2メートルの間隔を空けて ■登山中と飲食シーン以外はマスクを着用

■避難小屋に入る前は手指消毒し、適宜換気を ■トイレ使用後は手指や触れた個所を消毒

■登山道および山頂等での密集を回避:登山ルートを上り「夏山登山道」、下り「行者谷登山道」に分け、通行を分散

春期 自然ふれあい事業 活動報告

○観音菩薩石仏と寂静山周辺の謎の遺跡を探る

開催日:4月17日(土)



雨の中、寂静山に残る古社寺跡を探索しました。すでに藪に変わりつつある参道を歩き、大山寺唯一の観音菩薩石仏を訪ねました。

○榎水高原 旅するチョウ「アサギマダラ」観察会

開催日:6月5日(土)



森の小径でたくさんのアサギマダラに調査標識を書き放ちました。雄27頭、雌1頭。彼らは次にどこへ飛んでゆくのでしょうか。

※木谷沢 新緑の森散策とオルガニート演奏会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止になりました。

■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。

予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。

大山の毒蛇



○臆病な毒蛇「マムシ」



「大山にマムシはいますか？」という質問をされることがあります。
はっきり言って、「います！」

ただし臆病で神経質なので、人が多いところで見かけることはまずありません。
大きさは40~60cmと小型のヘビです。ただし胴体は太く、そのためか動きが鈍い
です。頭に比べて首がかなり細く頭が三角形に見えます。茶褐色の体には楕円形の
銭形の紋が交互に並んでいます。この特徴がある蛇がマムシだと思ってください。

水辺近くの藪や岩の上にいることが多いです。

気が荒いヘビだと思われていますが、全然そんなことはありません。人が来ても逃げずに(逃げることができずに)じっとしているために存在に気づかず、踏みつけて噛まれるという被害が多いようです。
彼らも太い胴体から突き出たネズミのような尻尾を小刻みに震わせて警告しています。
近寄りすぎなければ飛び掛かってくることはありません。毒は強いですが、小柄
なので毒の量が少なく噛まれても致命傷になることは少ないとのこと。ただし噛まれ
るとかなり痛いそうです。毒の種類は出血毒です。噛まれたら慌てずになるべく早く
病院に行ってください。大概の病院に血清が用意されています。

ちなみにマムシは卵胎生で、卵ではなく子供を産みます。主食はネズミやカエル
などです。夜行性ですが、日中、日当たりのいいところで昼寝をしていることがありま
す。田舎の人は見つけるとすぐに叩き殺してしまいます。何もしていないのに不憫です。

ちなみに首だけになっても数日は生きています。恐ろしいほどの生命力です。



○穏やかな毒蛇「ヤマカガシ」



ヤマカガシは山野や水田でふつうに見られる色鮮やかな蛇です。体長は60 ~
150cmあり、大型です。主食はカエル。おとなしい蛇なので子どもの頃はよく捕ま
えて撫でまわしていました。毒蛇として認識されるようになったのは1974年と割と最近
のことです。なんとマムシの5倍もの強い毒があり、日本の陸生の蛇では最強です。
この毒が認識されなかったのは、とにかく人を噛まないからです。

毒牙は奥歯にあり、短いので腕や足の太さの場所なら毒が体に入ることはまずあり
ません。痛みはあまりないそうですが、血が止まらなくなり脳出血などを引き起こし
ます。また毒袋が頸部(黄色い帯の部分)にあり、強く圧迫すると毒が外に飛び出ま
す。目に入ると激痛があり失明の恐れがあります。頭をたたくと毒液が飛び散るので
たたかないように！ 万が一噛まれたり毒液がついたらすぐに病院へ行きましょう。
ただし血清を用意している病院は少ないです。

この猛毒はヤマカガシが本来持っているものではなく、ヒキガエルの毒を体に取り
込んで濃縮したものだそうです。

ヤマカガシの様子は腹側がきれいな黄色で背中側が赤と黒の斑紋が交互に連な
るものが一般的ですが、青色に近いもの真っ黒なものなど個体差が大きいです。



※写真はすべてインターネットからお借りました。

大山の触ると危ない植物



ツタウルシ 山にはかぶれを起こすウルシの仲間がたくさん生えています。

中でも警戒すべきはツタウルシです。



成木はつるりとした3枚の葉が特徴

ツタウルシは、ウルシオールとラッコールというかぶれ成分をたくさん含んでいます。

このかぶれ成分は薄いビニール手袋なら浸透します！（体験あり）。

茎から気根を出して木や岩を這い上り、秋にいち早く真っ赤に紅葉して遠くからでもよく目立ちます。大きな卵形の三枚の葉が集まって一枚の葉となります。成木の葉は柿の葉のように光沢があり、葉の周りがなめらかです。幼木の葉には粗い鋸歯がありナツツタに似ています。幼木でもかぶれますから注意が必要です。

皮膚かぶれの症状は数時間から2日後にあらわれ、ひどいかゆみをとまいません。赤い発疹とかゆみを伴ったかぶれの他に、「水疱」といった症状がでることもあります。かゆみ等で皮膚をかいてしまい、水疱のな

かの液体が出てしまうこともあります。液体に触れても他の人に症状がうつることはありません。薬用成分の「ヒドロコルチゾン酢酸エステル」が入った薬には、ウルシかぶれによるかゆみや炎症を抑え鎮める効果があります。ヒドロコルチゾン入りの薬は、薬局やドラッグストアで手軽に購入することができます。ただし、いちど医師や薬剤師に相談してからの使用をお勧めします。

ウルシ科の植物は他にヤマウルシ・ヤマハゼ・ヌルデがあります。これらはツタウルシほどかぶれがひどくありません。



幼木の葉は縁がギザギザ



ミヤマイラクサ 深山の湿った沢沿いなどに生え、高さ40 ~ 100cmになる雌雄同株の多年草です。イラクサに似て深山に生えることからこの名があります。

茎や葉にギ酸（ハチの毒と同じ）やヒスタミン、アスチルコリンを含む刺毛があって、素手で触るととても痛く、その後にかゆみに襲われます。この痛みとかゆみには抗ヒスタミン塗り薬が効果的です。

ミヤマイラクサは単なる厄介者ではありません。茎の繊維が強いため、昔は織物の材料にしたそうです。また東北地方（特に秋田県）では代表的な山菜の一つで、アイコと呼ばれて親しまれています。ゆでると刺毛が落ちるそうで、味はくせがなく、ほのかな甘みがあるとのこと。

別称:カエントケ

地面から生える指のような形をした真っ赤なキノコは絶対に触らないでください。皮膚がただれるほどの毒があります。

近年、大山ではナラ枯れ病で枯れたミズナラの根元で見つかることが多くなりました。触って危険なキノコはカエントケだけです。




カエントケ幼菌

イベント情報（9月～11月）



■自然公園財団のイベント

<p>○豪円山 スピリチュアル秋の花観察会 開催日：9月25日(土) 9:00～12:00頃 会場：豪円山周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円</p>	<p>8月が過ぎると大山に早々と秋がやってきます。秋の気配を探して豪円山周辺の草原や林を歩き、花々を愛でます。大山に伝わる願掛けを実践。 願掛けポイントもご案内します。 定員：15名 自然観察</p> 
<p>○大山寺 阿弥陀堂周辺の謎の遺跡を探る 開催日：10月16日(土) 9:00～12:00頃 会場：阿弥陀堂周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円</p>	<p>木々が色づき始める大山のブナの森。大山寺周辺の森には古い寺院跡が眠っています。秋の気配を楽しみながら知られざる古代遺跡を巡ります。打ち捨てられた五輪塔や石段などに諸行無常を感じる自然観察会です。 定員：15名 歴史探訪</p>
<p>○幻の弥山禪定の道を歩く ※健脚向き 開催日：10月30日(土) 9:00～13:00頃 会場：大山の古い登山道(神事の道) 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 【お弁当持参】</p>	<p>江戸時代の大山の重要な神事「弥山禪定」で使用された登山道を歩きます。選ばれた僧侶だけが大山山頂(弥山)に登ることが許された道で現在は失われています。整備されていない道なので山登りに慣れた方限定。 定員：10名 歴史探訪</p>

■大山入山協力金■へのご協力をお願い

大山の持続可能な保全と利用を目指して、登山者の皆様に任意で協力金をご負担いただく実証事業を行っています。いただいた協力金は、大山の自然保護活動や登山道等の環境整備等に使用させていただきます。趣旨に賛同いただける方は、ご協力をお願いいたします。

【金額】 大山登山1回につき**500円**(500円を超える額でも結構です)
 募金箱が、「大山頂上避難小屋」と「大山ナショナルパークセンター1階」に設置されています。

【記念品】 ご協力いただいた方は、協力記念カード1枚をお持ちください。
 ※1年に複数回登る方で、まとめて3000円をお支払いされる方は、「頂上避難小屋売店」か「大山ナショナルパークセンター1階窓口」へお申し出ください。
 記念品(年間パス: 梨の木キーホルダー)をお渡しします。

【期間】 令和3年6月4日(金)～10月31日(日)

【お問い合わせ】 大山山岳環境保全協議会(仮称)事務局
 (鳥取県生活環境部緑豊かな自然課)
 〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
 Tel:(0857)26-7199 fax(0857)26-7561
 電子メール: midori-shizen@pref.tottori.lg.jp



※受益者負担制度検討中。中学生以下の児童・生徒、ボランティアや公務で入山される方などは免除されます。



一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地



〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33
 大山ナショナルパークセンター 1階
 TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370
 URL <http://www.bes.or.jp/daisen/>

